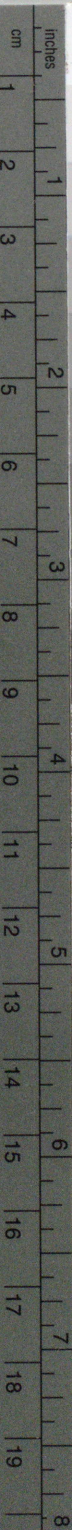


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

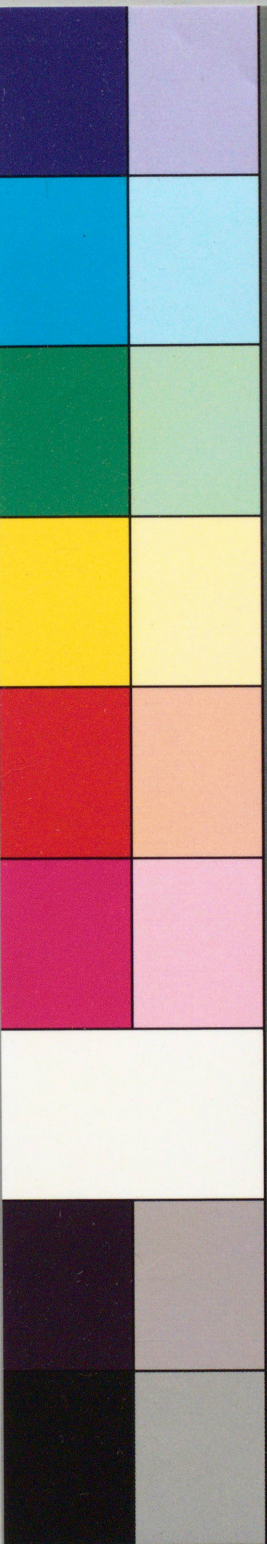


© Kodak, 2007 TM: Kodak

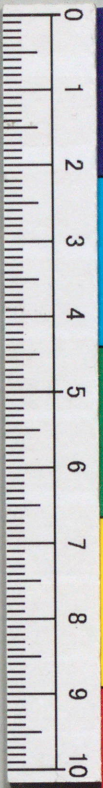


Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



10



秩父第一番田略縁起全

秩父第一番四萬部寺略縁起

全

四萬部寺小縁記

武品秩父郡第一番四萬部寺本尊聖觀世音菩薩
 の縁記と云んが、○にんぼうとらうりも人皇四十
ごだい五代聖武皇帝は御宇天平濟字の比行基菩薩
しやうめい詔命を奉り諸國巡幸の御事ハ元亨新當郡當山
おのり小遊河一畚下を宿り竹子に不心候之幽谷は
たつ杖毎夜光ぬあつて、ごう汝法哉漢涌るは春寺矣
むらとらひと那し。村里にありて由縁は此のふ

里人皆いよ世古も時々けきあり。魍魎の
不為ありやして。昔は河甲しん思ふのく行春
曰く。あゝば今世かの取はゆい。怪異は志
づめゆきとて。岩下に海り。心身空しく
と念誦しのお救す。幽谷の中。大樹は檀乃
中。妙なりは若くあつて。貌相佛形に似るもの
あつて。誦經すること。天ぬく彼ららら乃
中。伐薪ひるる。朽樹の朽る。自然は佛形

とあり。強へるあり。然もとも。河佛の形像なる
事。汝詳よせし。此朽樹年ありて。自然は佛形と
法。必回教の因縁より。四萬部をも。高村も寺も。東
南の民家を朽谷入し。あまの乃。民衆は回教と
の春せい。新して曰。地。仏法。獨る人の記あり。
いづきの。仏菩薩。しん。人。取。紀。の。地。し。て。
未代に。新し。ま。り。を。り。あ。ま。真。相。故。跡。
を。ら。ん。と。て。一。七。日。を。終。し。善。徳。終。し。終。七。日。
小。満。ず。る。れ。ぬ。微。風。香。を。と。る。ぐ。く。紫。雲。深。

ふんぎの
糸来記り
り春かん
液肝
は絡
ト
則カ
の枳樹
一
株と
あ
く
ん
ど
示
現
の
妙
相
成
彫
刻
一
法
長

そ
又
お
す
之
安
れ
る
像
法
苦
小
海
う
せ
岩
窟
の中

に
留
置
の
小
崗
村
四
萬
部
寺
の
本
尊
是
乃
乎
也
好

貴
皇
相
と
處
く
王
公
大
臣
乃
尊
崇
も
れ
く
權
者

も
傍
の
付
指
も
り
く
び
り
く
岩
窟
乃
中
に
く

せ
の
よ
勢
く
一
条
院
の
御
宇
正
曆
年
中
一
花
山
院

然
此
那
智
山
乃
乃
幸
り
つ
く
花
山
法
皇
乃
ち
き
ん
り
所
幸
あ
つ
く
吉
形
一
也

奉
千
日
なり
其
時
は
龍
神
如
意
宝
珠
一
顆
水
晶
の
珠
数
三
事
九
穴
の
海
貝
一
枚
と
な
る
法
海
貝
ハ
那
智
乃
法
皇
ハ
流
た
た
へ
上
身
ハ
元
亨
日
本
百
番
の
靈
地
流
生
乃
法
乃
取
代
親
書
ハ
見
り

志
り
め
一
法
皇
乃
と
法
皇
乃
あ
り
き
然
此
權
現

是
乃
ち
山
龍
龍
權
現
本
地
千
手
觀
音
也
一
説
ハ
大
己
貴
尊
乃
智
乃
法
皇
乃
如
意
輪
觀
音
乃
る
像
故
負
出
現
の
ハ
又
社

家
の
説
に
ハ
摩
訶
陀
國
慈
悲
人
乃
主
皇
子
の
姿
と
り
く
日
本
に
飛
来
也
大
己
貴
尊
ハ
云
云

是
を
法
皇
乃
と
い
は
れ
り
曰
く
百
番
の
靈
地
流
生
乃

縁
の
下
と
り
く
志
り
め
一
法
皇
乃
と
い
は
れ
り
法
皇
乃
と
い
は
れ
り

行
人
ハ
赫
奕
た
る
光
明
十
方
に
り
や
く
百
番
其
地

多像のふんそり。歴然としてかの光昭乃中に
 示現きり。法皇感感のありあり。ゆゑ沙汰成
 るゆゑせ行ふ。光昭乃中感感なりとせのふ
 具地を。さるるらち今の百番乃札正是あり。西國の
 白の養老二年抄。初河色那仲山寺十一面観音を才一と定
 け寺聖徳太子建立日本観音堂の初くと傳記に記しあり
 坂東の札正同白の初観二年と云傳ふは是也。ふりきども。
 中もいずば其縁を及ぶは秩父同白の素意あり。あつきども。
 物智星移と。國云の治札は。あつきども。巡礼の
 みら絶あとむりうして傳てりものあり。

流る蹤跡依りしるし

保元平治の比天下不平にして
 神社仏署らしくや衰廢せり

四條院の御宇。文曆元甲午年三月十八日。

十三人志權去山伏の姿とありし也。

文曆元甲午年
 二月十八日十三
 人の權者巡礼せんたつとなりゆふ故実よりて秩父札正の
 代古より午年と云正月元朔々九月晦日ありと云。心ヶ所也
 并然又甲午年八月元日より十二月晦日まで無因帳之
 毎年三月十八日高山観音祭礼も大のりしなり也

當山岩窟の中に當並行ふる像とありし也

あり。むり法皇感感乃具地之十四所を同白

一のふ。法皇とハ花山法皇なり。四勢部の
 多像成るるの事あり。則七ヶ日に

て二十四所と巡礼し。あつての南と北。百番巡礼
 成就供養法要あり。すれから今の本なる法
 小あわく。法華經法どくあつてのよと回
 部之。す時に百番の觀世音。のあつて思眷屬と
 せして來迎し。權志乃供養法うあたるふ
 ぬし。ごや山中の草木瓦石とくを文字法
 示現きり。十三人權志をふりいりて。一つの塚と
 花さ。百番あつて礼成就供養法華回部と

經塚とあつて。名合掌し。毎地願し。法
 末代乃衆生。信公あつて。一度礼せん衆生。
 たと極聖悪人なりた。飛業あつてのしと法。
 我つて。性聖とて。是阿彌陀如来御化身十三人の
 四聖五逆乃衆人なりた。一度巡礼せん。北車は
 大地獄の中にあつて。是阿彌陀如来の御
 邪見のあつたり。やも。礼の初めに。一衆のを
 法し。あ合乃食と法し。たる者も。我みなあ

礼して六道乃若患哉是俱生神御化

身乃穢惡志凡夫若なりとも一度巡礼せん若ハ

身に法彩若なるも冥加あり若め福哉

いづも福とのぞく是妙見菩薩藏主権現乃御化身の誓願なり我慢

慳貪の亦ありとも巡礼の行者に隨志若の志

あゝ水火天死の難とす是愛宕権現福壽ん

たとへ貪穢孤独若乃身なりとも一度巡礼せん

華々子孫繁榮若する位高官に昇進せん是泰山白河

法皇乃所世教一法皇御在位の御佛法白河法皇は

花山法皇ハ那智山に十日御系あり白河法皇は

後白河法皇は二十四夜白河法皇ハ後白河法皇

時示現一のひ白河法皇ハ後白河法皇

法皇ハ御在世の御巡礼のた一短命無福若乃身なり

た一度巡禮せん若華々福壽若ともよ若さう若終若と

佛家小生是在道上人御化若の哲言若なり若世上人佛

西國乃礼而若建若立若一若の若ふ若と若云若た若と若人若不信若不若来若り若て巡禮若せん若華若も若法若の若普若陀若洛若世若界若に若遊若す若て微妙若の若法若回若と若受若と若六若根若清若淨若と若せん是書馬山聖堂上人御化

身の誓 我なり 孝とく 延治の重病とうけん者も。一度

礼せん 孝は。あさ方役と志く 現世けんせん。

後生苦海の生ん 是醫王上人出化身の誓願上人は春日野岡山熊野新文の山本地

御使方と云云 たとく 垢穢不浄の男女巡礼せん

孝ハ末世末代まじく 我回沙之。我前よ三十二度

系詣せんよりハ。一度礼礼せん。一度ハ父のため

一度を母乃きめ。一度ハ自身乃ため 西五坂東秩父

云度礼礼せん事た中よりすた之ハ秩父よりにては父 自身のためよ三度志願礼せん 昂百番より成又百番と

建立す事ハ果満成乃佛相 かくのどく此の者

百福莊嚴乃 祈りまひに 擬して

阿ハ 我躬身に 注ぐ 守護 悪事災難我

皆門くうけ 貧者にハ 福とさつ也 病者母も

薬成阿く入 子なきよハ 子成授 命小壽命

とあし 身ん 是熊野権現御化才乃誓願之此十教志願礼

の身にうれハ即十徳なり 世小礼礼乃十徳と

いハ是より今時志願礼のり老たと同形三人なり とも 同形三人と 礼おいはり 誓願に志願礼せん 老ハ末世末代まじく 我回沙之と 志願又信く 熊野権現と同 形小書くまゆの又おいすり 誠意用するとも 又曆元年 十二人乃 權者 羞と 負の 山崎よ 志願して 又 女人の 身月 乃 障あり とも 山崎形 垢穢不浄の 男女 末世末代まじく

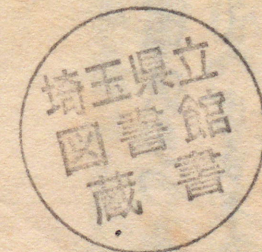
我回りことのゆふよりて月の隈もいとすとなり
月小除のまじり權現乃沙はあふりく高寺より出
十二人の權者。は十教とすまのりて利益庇生
乃眉と云くき歡花ゆくくしく各本形
りり。本所又ゆせ竹ふ。十二人志權者
どは阿弥陀如來圖魔大王俱生神妙見菩薩
藏王權現愛宕權現稻荷明神花山法皇白
河法皇德道上人聖空上人醫王上人熊野權
現此十三人の佛神志傳の法花經四巻の
歩深涌忠も縁高山上も事す是等の

佛神法皇高僧ら。宿値此礼本教力に
化現一の跡は百番茶剣の礎高少も
法華四巻部づくる一行も時小。百番
觀世音濟來迎なとせられ。經塚乃
て。各沙折言教の廣大なる事。い
にや經文も首を靈山はあつて法華と
今西方に立てハ滿臨と名け。末世濁代
觀世音と名く。あつてハ法花。此は觀音。法佛

引^き乃^も固^く縁^{えん}た^つと^も心^こな^しと^云云

十^終

四^高部^部寺^寺藏^藏板^板



埼玉県立浦和図書館



300819125